



東京からUターン。調理師から漁師へ！

しらくら あきひろ

島原半島南部漁業協同組合 白倉明洋さん 33歳

漁業暦11年

白倉さんは、たこつぼ、ワカメ養殖の2本立てで操業されています。

白倉さんは、南有馬地区の数少ない若手漁師のホープ。父親と一緒に夏は「たこつぼ漁」、冬は「ワカメ養殖」を営んでいます。

漁協の青壮年部の活動や地区で行なわれる朝市、藻場保全の取組み等にも積極的に参加されている一方、二人の子育てにも奮闘中のイクメンです。

幼い頃から漁業を営む父の背中を見て育ち、小さい頃は「あらかび(カサゴ)延縄などを手伝ってはいたもの」の調理師という漁業とは異なる道に一度は進まれました。

東京で生活していくうちに「漁業は自分の努力次第で成果が返ってくる」と思い生まれ育った地に帰ってきたこと。現在は、家族と一緒に「はしり蛸」のたこつぼ漁と「原城わかめ」の養殖を営まれています。

また、漁業を営む傍ら、趣味の金魚(らんちゅう)に没頭するなどゆとりとした暮らしを送られています。

自分の子どもも本人が希望するならば漁業を継いでもらいたいと話しておられました。



白倉明洋・望美さん



経歴

18歳 高校卒業後、専門学校に進学

小学生から父親の漁の手伝いをして漁業に興味はあったが、もうひとつの夢であった調理師への道を目指す。

20歳 東京のホテルに就職

学校を卒業後、東京で調理師としての人生をスタート。安定した生活の中で、努力が評価に結びつかない仕事に疑問を感じ始める。

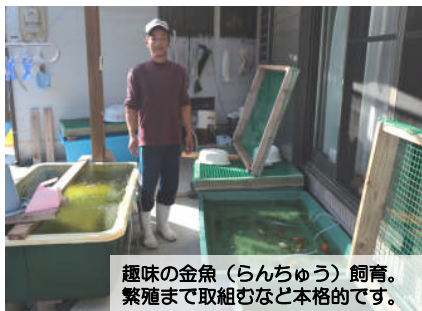
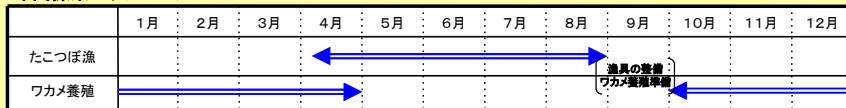
22歳 地元の南有馬に戻り父のもとで修行

漁業は、自分のがんばりに見合った成果が感じられると思ひ、地元へUターン。地元に戻り半年後、東北出身の望美(のぞみ)さんを長崎に呼び結婚。

白倉さんの操業スケジュール



年間操業スケジュール



趣味の金魚(らんちゅう)飼育。繁殖まで取組むなど本格的です。

家族(妻)の声

漁業のイメージもなく長崎に来て、困ったことといえば方言が理解できなかったことぐらい(笑)。

自然に囲まれて同居する主人の両親も周囲の方々も大変優しく、特に不都合はなく楽しんで生活しています。

日中、海に出る間は日帰りですし安心していますが、早朝暗いうちに出漁すると少し心配になります。仕事も、出来る範囲で手伝っていきたくと思っています。ただ、金魚については主人ひとりでも頑張ってもらっています。

漁業以外の活動の様子

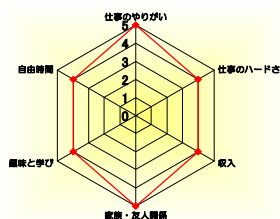


地元ケーブルテレビの番組に出演
地元の特産品「はしり蛸」を紹介する番組に出演し、タコの漁法、食味等説明を行ないました。



漁協の共同作業に参加
地域の仲間と稚貝放流、漁場改良等に取組んでいます。

白倉さんの本音チャート



「漁業は努力次第で収入はあがるし、午前中中心の操業で午後から比較的自由に過ごせるところが魅力です。」

